

**11) ピーナッツやあめ玉などは子どもの手の届かない所に置いてありますか。**

子どもの口の大きさは最大直径32mmなので、小さな物は口の中に入ります。おもちゃが口の中に入ってしまったら、食べ物が飲み込めないで喉につかえてしまったりします。子どもの喉はまだ発達途上で、気管に物が入りやすく、ピーナッツや抹茶などの豆類を吞入するのは危険です。豆類は赤ちゃんの気管をさかすかまで、気管に入っていると気がつかないと、肺炎の原因を起してしまいます。



ピーナッツは3歳を過ぎるまでは与えない。食べ物はほこりや大きさ、口の中に入れる量を考え、ゆっくり食べさせる。

**12) 入浴後、浴槽のお湯は抜いていますか。**

お母さんがシャンプーをしている少しの間でも、浴槽をよじ登って濡れてしまうので、子どもは浴槽の外にいないからといって安心できません。掃除をしようとして浴槽のドアを開け放していたら、勝手に浴室に入って湯水してたり、浴槽のふたを開けておいたり、転落し濡れていたり。入浴後、浴槽のお湯は抜いておき、浴槽の蓋は入浴する直前に外します。



入浴後、子どもが小さいうちは浴槽のお湯はすぐに抜いておく。浴槽の蓋は入浴する直前に外す。

**13) 子どもが浴室のドアを開けて一人でも中に入ることがありますか。**

知らないうちに浴室に入ってしまう、浴槽をのぞきこんで濡れてしまった事故が起きています。浴室のドアは開けっ放しにせず、外かぎをかけて自由に入れないようにしておきます。



子どもが簡単に浴室に入れるようにドアには外かぎを付ける。子どもだけで浴室へ入れさせない。



著者 国立保健医療科学院 生涯保健部 田中 智郎

無断複製禁止

# 子どもに安全をプレゼント

1歳6か月児健診用  
(1歳6か月～3歳児対応)



事故防止のポイント〈その6〉

国立保健医療科学院 生涯保健部 田中 智郎

**① 子どものまわりに危険がいっぱい周囲のちょっとした気ばりで事故の大部分は防げます。**

**1) 子どもが遊んでいる周りに、つまずきやすい物や段差がないか注意をしていますか。**

床に出してあるおもちゃや掃除機のコード、めくればあったカーペットにつまづいたり、公園で石段につまづいて転んだり、子どもは足元を見ながら歩いているので、ちょっとした段差にもつまずき転倒します。ある程度高さのある段差は認識できず、ちょっとした段差は逆に危険なので注意が必要です。



子どものまわりに、つまずきやすい物や段差がないか確認する。部屋の中は整理整頓しておく。

**2) 階段を昇り降りするときは、大人がいつも子どもの下側を歩くか、手をつかないですか。**

階段を上り下りするときは、転んでも支えられるように子どもの下側を歩きます。最初は後ろ向きにハイハイをして下りるようにし、歩いて下りられるようになったら手を取ったり子どもの横から下側を歩きます。また、大人の目が離れることがあっても安全なように階段の上下階には柵をつけ、閉め忘れないようにすることで、階段からの転落事故を防ぐことができます。



階段の上り下りは、大人がいつも子どもの下側を多くかきをつくる。階段の上下には柵をつけ、閉め忘れないようにする。

**3) 子どもの位置を確認してからドアを開けていますか。**

開き戸を勢いよく開けたら反対側にいる子どもにぶつかったり、ドアや引き戸が透明ガラスだと判明しているのがわからなくて突進してぶつかることがあります。シールを貼ったり、ぶつかっても飛び散らないようなフィルムを貼って防止します。



子どもの位置を確認してからドアを開閉する。

**4) ペンやフォーク、歯ブラシなどをくわえて、走り回ることがありますか。**

口に物を入れたまま多量に走り歩き回っていると、壁にぶつかったり転んだときに口の中を切ったり、喉を突いたりする危険があります。手に持っている物は、転んだとき突き刺さります。



ペンやフォーク、歯ブラシなどをくわえたまま走り回させない。

**5) 子どもの腕を強く引っ張ることがありますか。**

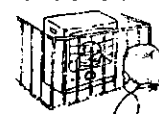
おむつを交換した後、子どもを起こそうとして腕を勢いよく引っ張ったので肩が脱臼してしまったり、転びそうになって片腕を急に引き上げたり、お兄ちゃんお姉ちゃんが遊んでいて引っ張ったりしたときに起こります。脱臼は劇痛になりやすいので、急に腕を引いたり、強くなり過ぎないようにするよう注意が必要です。



子どもの腕を引くときは強くなりすぎないようにする。

**6) ストープやヒーターなどは安全柵で囲い、子どもが熱い物に触れないようにしていますか。**

食事の準備している台所は子どもにとって危険な場所のひとつです。コンロから下ろしたばかりのやかんや熱い物に触ってしまったら、足元にいる子どもにも熱いストーブや湯などがかかると、ひどいやけどを負ってしまいます。



ストーブやヒーターなどは安全柵で囲い使用する。食事の準備をしているときは台所に子どもを入れないようにする。

**7) 医薬品、化粧品、洗剤などは子どもの手の届かない所に置いてありますか。**

子どもは大人のまねをしたがり、引き出しに入っている薬も取り出して飲んだりします。また、お母さんが使う化粧品はこのほか興味関心があり、洗面台や化粧台の上に無造作に置いておかないようにします。



薬は手の届かないところに置き、不要になったものは捨てる。薬入れにおかしの空き缶などを使わない。化粧品や洗剤は桶の中に保管し、届かぬようにしておく。

**8) 子どもが鼻や耳に小物を入れて遊んでいることがありますか。**

子どもはビーズやプラスチックの玉、小さなブローチやおかしなどをおもちゃの半分まで鼻や耳に詰めて遊ぶことがあります。異物が詰まると取れなくなり、腫れは事故に繋がることもあるので注意が必要です。特に鼻から入ったものは、長時間そのままとしておくと鼻の中の粘膜に炎症を引き起こします。



子どもが鼻や耳に入れて遊ばないように注意する。

**9) 子どもが引き出しやドアを開け閉めして遊んでいることがありますか。**

家具の引き出しを開け閉めして指を挟んだり、引出しを出してよじ登りタンスが倒れてはさまれたり、サッシのかぎの部分が子どもの背たけから入ってめくれたりしたくなる所なので、簡単に開けられないようにしておきます。気密性の高いサッシにのみさきと、ひどい場合は指の骨折を起してしまいます。



引き出しやドアを開け閉めして遊ばせない。サッシの溝には消しゴムやラップの芯などをはさんで防止する。

**10) 自動車に乗るとき、チャイルドシートを後部座席に取り付けて使用していますか。**

子どもはなかなかじっと座っていられませんが、チャイルドシートに座らなければならぬと、抱きかかえて乗せてしまいがちになります。スピードを出してなくても、衝突による力は子どもを死亡させたり、ひどく傷つけてしまいます。



車に乗るときは、後部座席にチャイルドシートを設置して座らせ、シートベルトをしっかり閉めておく。

## 3歳児健診用安全チェックリスト(3~5歳児対応)



子どもの周りには危険が一杯です。この機会にもう一度子どもの目の高さにおいて安全チェックをしてください。  
アンケートに記入し、同時に子どもの“安全”と“危険”について考えてみてください。  
安全チェックリストは記入後、健診時にご持参ください。

記入者の名前 \_\_\_\_\_

子どもの名前 \_\_\_\_\_

子どもの性別            男    女

生 年 月 日            年    月 (    才    ヵ月)

1. 子どもが外遊びをするとき、つまずきやすい物や段差がないか注意していますか。	はい	いいえ
2. 浴室の床やタイルは滑りにくいですか。	はい	いいえ
3. いつも子どものいる位置を確認していますか。	はい	いいえ
4. すべり台やブランコの安全な乗りかたを教えてくださいませんか。	はい	いいえ
5. ベランダや窓の側に踏み台になるものがありますか。	いいえ	はい
6. おもちゃで遊んでいるとき、危険なことをしていないか確認をしていますか。	はい	いいえ
7. 車のドアを閉めるとき、子どもの指を挟まないか確認をしていますか。	はい	いいえ
8. 自動車に乗るときは必ずチャイルドシートを使用していますか。	はい (車は使用しない)	いいえ
9. 子どもに交通ルールを教えてくださいませんか。	はい	いいえ
10. ストープやヒーターなどは安全柵で囲い、子どもが熱い物に触れないようにしていますか。	はい (使用しない)	いいえ
11. 医薬品、化粧品、洗剤などは子どもの手の届かない所に置いていますか。	はい	いいえ
12. 子どもが鼻や耳に小物を入れて遊んでいることがありますか。	いいえ	はい
13. 子どもだけで川や池に遊びに行くことがありますか。	いいえ	はい
14. 水遊びをするときは必ず大人が付き添っていますか。	はい	いいえ
15. あめ、こんにやくゼリー、おもちゃなどをあげるとき、喉に詰まらせないように注意していますか。	はい	いいえ

著作：田中哲郎 禁 無断複写

12) 子どもが鼻や耳に小物を入れて遊んでいることがありますか。

子どもはビーズやプラスチックの玉、小さなブロックやおかしなどをおもしろ半分鼻や耳に詰めて遊ぶことがあります。異物が詰まって取れなくなり、悪化め事故に繋がることもあるので注意が必要です。特にあか入ったものは、長時間そのままにしておくと鼻の中の粘膜に炎症を引き起こします。



子どもが鼻や耳に入れる小物が無いよう、部屋の中は整理整頓をする。

13) 子どもだけで川や池に遊びに行くことがありますか。

外で友達同士で遊ぶことが多くなるので、住居の近くの池や川、浄化槽や防火槽など子どもが落ちる危険がある場所がないか確認しておきましょう。洗濯物も流れがあると、バランスを崩して転ぶと簡単に立ち上れません。



谷塚から川や池、水場などに近づかないよう注意しておく。

14) 水遊びをするときは必ず大人が付き添っていますか。

水遊びは子どもを開放的な気分させる遊びですが、子どもはわずかな水深でも溺れやすいです。浅瀬だから、目のビニールプールだからと安心して目を離すと大変危険です。



水遊びをするときは必ず大人が付き添う。ビニールプールは遊んだ後は必ず水を流してふせておく。

15) あめ、こんにやくゼリー、おもちなどをあげるとき、喉に詰まらせないように注意していますか。

あめを喉に詰まらせたり、食べ物が飲み込めないで喉につかえてしまったります。子どもの喉はまだ未発達なので、気管に物が入りやすく、落ち着いて食べないと窒息してしまいます。



食べ物には硬さや大きさ、口の中に入れる型を考え、ゆっくり食べさせる。



著者 国立保健医療科学院 生涯保健部 田中 智郎

無断複製禁止

# 子どもに安全をプレゼント

3歳児健診用 (3~5歳児対応)



事故防止のポイント(その7)

国立保健医療科学院 生涯保健部 田中 智郎

## ①子どものまわりに危険がいっぱい周囲のちよとした気づきで事故の大部分は防げます。

### 1) 子どもが外遊びをするとき、つまずきやすい物や段差がないか注意していますか。

子どもは体のわりに頭が大きく重心が高いため、バランスを崩してよく転びます。走っていて足がもつれたり、スニーカー、三輪車に乗っていて石や段差で転倒したりします。おだたき上手に手を出すことができます。段差からスファットやコンクリートに転落すると重傷な事故になる場合があります。



子どものまわりに、つまずきやすい物や段差がないか確認する。足のサイズにあった靴をはいて遊ぶ。

### 2) 浴室の床やタイルは滑りにくいですか。

浴室のタイルは水や石鹸で滑りやすく、転倒すると顔や首、ドアのサッシで怪我したり切傷してしまいます。



浴槽の床やタイルは滑りにくくしておく。

### 3) いつも子どものいる位置を確認していますか。

ジャンプしたり、走ったり、三輪車をこいだり、お母さんがお預りに夢中になっていないか必ず確認し、子どもは思いがけぬところへ移動します。ソファからジャンプして角に降りてテーブルにぶつかったり、走って走っている間にあたり、危険な遊び方を始めたら、きちんと指導しましょう。



外遊びをするときは、子どもは思いがけないところに移動するのを注意する。子どもの視線を良く観察し、安全に遊べる環境を作る。

### 4) すべり台やブランコの安全な乗りかたを教えていますか。

すべり台で前をすべっている友達を使うから降りたり、ブランコに立ち乗りして転落し、戻ってきたブランコにあたりたり、子どもは決まった遊び方では物足りず無理なことをしようとして、安全に作られている遊具でも遊び方を誤れば事故の引き金となり、思わぬ怪我を齎してしまいます。



遊具の安全な遊び方を教える。遊びのルールを決め守らせる。遊具の周りにガラスや、空き缶など危険なものが落ちていないか点検する。

### 5) ベランダや窓の側に踏み台になるものがありますか。

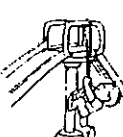
ベランダや窓の向こう側の景色に子どもは興味津々です。子どもの好奇心をくすぐる場所であるのと合わせて、転落したときの被害の大きさも忘れてはなりません。高い階にあるベランダからの転落事故は死亡や重傷などの生命にかかわる事故につながります。



ベランダにはビールのケース、新聞のまと、高さのある植木鉢など、踏み台になるものは置かない。子どもがのぞきこめる窓には安全網をつけ、ベッドやソファ、椅子やテーブルなど子どもがはしり上がる物はそばに置かない。

### 6) おもちゃで遊んでいるとき、危険なことをしていないか確認をしていますか。

おもちゃを持って遊具の高いところから飛び降りたり、砂場遊びのシャベルで打ちあつたり、棒とびやもくすべりやジャンプゲームにかけて遊んだり、子どもは大人が思いつかないような遊び方をします。子どもの遊んでいるおもちゃや遊具の種類、遊び方について大人が常に確認する必要があります。子どものおもちゃの大部分は安全に設計されていますが、子どもは本来の遊び方で遊ぶとは限らないので常におもちゃの安全を点検しておきます。



子どもの年齢や能力に合った遊具を選び、遊び方のルールを身につかせる。

### 7) 車のドアを閉めるとき、子どもの指を挟まないか確認をしていますか。

車のドアを閉めるとき、子どもの指があるのに気付かず閉めてしまうと、車のドアは重いのだから子どもの指は重傷を負ってしまいます。車のドアは子どもが開かないようにドアロックしておき、パワーウィンドウを閉めるときは、窓から顔や手がでていないか確認してから行う。また、自転車に乗せていて後輪に足をはさむ事故も起こっています。



車のドアを閉めるとき、子どもの指をはさまないか確認をする。ドアやパワーウィンドウはロックしておく。子どもを自転車に乗せるときは、足が巻き込まれないように、ドレスガードのついたものを選ぶ。

### 8) 自動車に乗るときは必ずチャイルドシートを使用していますか。

子どもはめがけかじって壊ってしまったり、チャイルドシートに体が当たって倒れたり、使用しないで車に乗ってしまうことになりませんが、シートを出してしまっても、衝突による力は子どもを死にさせたり、ひどく痛つけてしまいます。走行中、子どもは車内の位置を動かさないようにするためチャイルドシートにシートベルトをしっかり閉めておく。



車に乗るときは、後部座席にチャイルドシートを設置して座らせ、シートベルトをしっかり閉めておく。走行中は子どもは車内の位置を動かさないようにする。

### 9) 子どもに交通ルールを教えていますか。

信号の変わり際に横断歩道を渡って車と接触したり、ボールを渡って道路に飛び出し引かれたり、子どもは横断歩道に歩かずに横断歩道を渡るときは、周囲に注意を払うことがなかなか上手できません。



交通ルールを子どもに教える。送迎を歩くときは手をつなぎ、大人は歩道側を歩く。三は車や自転車は車が通らないところで乗るように指導する。

### 10) 子どもが熱い物に触れないようにしていますか。

熱いストーブに手を近づけてしまったり、フライパンの熱い油に手を触れてしまったり、食卓の準備している食卓も子どもにとっては危険な場所のひとつです。



熱いものを触るとやけどをすることを教える。ストーブやヒーターなどは安全柵で囲い使用する。台所のコンロの鍋やフライパンの取っ手には触れさせない。

### 11) 医薬品、化粧品、洗剤などは子どもの手の届かない所に置いていますか。

子どもは大人のまねをしたがり、引き出しに入っている薬も取り出して飲んだり、好奇心が強く、トイレ用洗剤、カビ取り剤、漂白剤など揮発性に置いておくとなかなか危険があります。誤飲の機会、吐かせているものと同じものがいるので、まず飲めども飲んではいけないと判断することが必要です。



薬は手の届かないところに置き、不要になったものは捨てる。入れれにおかしの空き缶などを使わない。化粧品や洗剤は併せ中に保管する。

## 母親・両親学級用チェックリスト



子どもの成長は早く、また、成長するにつれ危険もさまざまです。  
ご誕生の準備とともに、この機会にもう一度子どもの目の高さで安全をチェックしてください。  
アンケートに記入し、同時に子どもの“安全”と“危険”について考えてみてください。

安全チェックリストは記入後、ご持参ください。

記入者の名前 \_\_\_\_\_

1. 赤ちゃんに多い事故を知っていますか。	はい	いいえ
2. ベビー用品やおもちゃを購入するとき、デザインより安全性を重視していますか。	はい	いいえ
3. 部屋の中を整理整頓していますか。	はい	いいえ
4. 角の鋭いテーブルや家具がありますか。	いいえ	はい
5. 赤ちゃんの敷布団はふかふかの柔らかいものより、硬いものを準備していますか。	はい	いいえ
6. ベビーベッドの柵とマットレスの間にすき間がありますか。	いいえ (使用しない)	はい
7. チャイルドシートを準備する予定ですか。	はい (車は使用しない)	いいえ
8. 赤ちゃんを家に一人置いて外出したり、車の中に一人で乗せておくことは良いと思いますか。	いいえ	はい
9. 子どもの応急手当の方法を知っていますか。	はい	いいえ
10. かかりつけの病院や緊急時の連絡先がわかるようにしてありますか。	はい	いいえ

著作：田中哲郎 禁 無断複写

9) 子どもの応急手当の方法を知っていますか。

子どもが事故にあったとき必要なのは冷静な判断と適切なすばい応急手当です。的確な応急手当がなされたことで一命を取りとめたり、軽症ですんだりします。いざというときあわててパニックになってしまうような基礎的な知識と簡単な応急手当を覚えておきましょう。



子どもの応急手当の本を読み理解しておく。

10) かかりつけの病院や緊急時の連絡先がわかるようにしてありますか。

事故が起ってしまったときあわてないためにも、かかりつけの医師や病院、緊急時の連絡先などはいつでもわかるようにメモしておきます。



緊急時の連絡先すぐにわかるようにしておく。母子健康手帳・保険証・診察券などはひとまとめにしておいていつでも持ち出せるようにしておく。

子どもに安全をプレゼント



著者 国立保健医療科学院 生涯保健部 田中 智郎

監修 浅井 尚

子どもに安全をプレゼント

母親・両親学級用



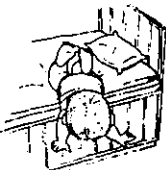
事故防止のポイント(その8)

国立保健医療科学院 生涯保健部 田中 智郎

1) 子どものまわりに危険がいっぱい周囲のちょっとした気ばりで事故の大部分は防げます。

1) 赤ちゃんに多い事故を知っていますか。

赤ちゃんは寝返りができるようになるとベビーベッドや高い所からの転落。物がつかめるようになるとタバコや小物の誤飲。ハイハイやつかまり立ちをするようになると転落や熱い物を触るのやけど、外遊びや外出をするようになると交通事故が起りやすくなります。大人が子どもの発達や行動パターンを良く理解し的確に対応すればほとんどの事故は防止可能です。



事故に結びつく子どもの発達や行動パターンを知っておく。

2) ベビー用品やおもちゃを購入するとき、デザインより安全性を重視していますか。

赤ちゃんが使うものはすべて安全の規格や基準にあっているとは限りません。Sマーク・SGマーク・S1マークなど安全マークがついているものでも、使い方や使用月齢が違っていたり、赤ちゃんの体にあてていないと事故は起ります。使い方の表示や注意事項は大切に、説明書を良く読み、構造や品質に問題はないかを確認して使用しましょう。



取扱説明書や使用上の注意を良く読み、きちんと守って使用する。

ベビーベッド、子ども用の椅子、ベビーカー、衣類などはデザインだけではなく、安全性にも目を配る。

3) 部屋の中を整理整頓していますか。

タバコ・ボタン電池・クリップ・硬貨・ピアスなどの小物を床やテーブルに散らしたままにすると、赤ちゃんは手を口に入れて行きなででも口の中に入れてみようとするので危険です。赤ちゃんの口の大きさは最大32mmなので、これより小さなものは飲み込んでしまいます。



部屋の中の小物を整理整頓しておく。タバコや灰皿は赤ちゃんの手の届かないところに置く。自宅だけではなく、実家やよその家に出出したときも注意する。

4) 角の鋭いテーブルや家具がありますか。

ミルクをあげようとして抱きかかえたとき、急に顔を後回してテーブルにぶつかってしまったり、赤ちゃんはじっとしていません。今まで簡単に通れていた所でも、赤ちゃんを抱いているときは足元が狭いので、床が濡りやすかったり、カーペットがめくれだっていたり、ちょっとした段差にもつまづきやすくなります。赤ちゃんを抱きながらつまづくと、つまづいた時に赤ちゃんが角の角が当たっているテーブルや家具にぶつかると危険です。



角のするどい家具やテーブルはクッション等でカバーする。赤ちゃんを抱いたりおぶったりするときは、まわりにつつかると危ないところがないか、安全を確認してから行動する。

5) 赤ちゃんの敷布団はふかふかの柔らかいものより、硬いものを準備していますか。

敷布団は柔らかすぎると赤ちゃんの顔が埋まってしまう、鼻や口がふさがれてしまいます。また、ベッドの中や寝ている赤ちゃんの側にぬいぐるみやタオルなどが置いてあると寝返りをしたときに顔が埋まってしまう。



敷布団は硬めの物を使用し、おおむねに覆かせる。

6) ベビーベッドの柵とマットレスの間にすき間がありますか。

ベビーベッドの柵と敷布団の間に赤ちゃんの頭が入るようなすき間があると、頭がはさまって動けなくなり、窒息する危険があります。すき間ができてしまう場合には使用をやめるか、タオルなどをはさみすき間をなくして使用します。



ベビーベッドはヘッドの柵と敷布団の間にすき間がないようにして使用する。

7) チャイルドシートを準備する予定ですか。

生まれたばかりの赤ちゃんでも、抱きかかえて自動車に乗せるのは危険です。抱いていても車が衝突したり、急に止まると、乳幼児は顔から飛び出し衝撃をまともに受けてしまいます。たとえゆくり定めていても衝撃のエネルギーは予想以上に大きく、大人の手の方では支えきれません。



車に乗せるときは年齢にあったチャイルドシートを後部座席に取り付け使用する。

8) 赤ちゃんを家に一人置いて外出したり、車の中に一人で乗せておくことは良いと思いますか。

赤ちゃんが寝ている少しの間、赤ちゃんだけを家に置いて買い物などに出かけるといふ人がいますが、出かけるときは寝ていても途中で起きてしまったり、寝返りやハイハイができるようになれば、家の中を動き回るいろいろな危険が待ち受けています。また、火災や地震など災害の際にも一人では脱出できません。赤ちゃんは自分自身で身の安全を守ることはできないので、大人が常に心かけする必要があります。また、夏に赤ちゃんを自動車の中に置いておくと、たとえ窓を開けていても、時には死亡事故につながる危険があります。車内は日中短時間でも温度が暑くほど上昇し、40～50度になります。



赤ちゃんを家に一人残して外出しない。車から降りるときは必ず赤ちゃんも一緒に降ろす。

# 子どもに安全をプレゼント 事故防止支援サイト

保健医療・保育関係者用トップページ

トップ > 保健医療・保育関係者用トップ > 発達段階別事故防止パンフレット

寝返りをはじめたら



- ・パンフレット/表(282KB)
- ・パンフレット/裏(647KB)



物がつかめるようになったら



- ・パンフレット/表(358KB)
- ・パンフレット/裏(546KB)

ハイハイをはじめたら



- ・パンフレット/表(307KB)
- ・パンフレット/裏(526KB)

つかまり立ちをはじめたら



- ・パンフレット/表(345KB)
- ・パンフレット/裏(604KB)

歩きはじめたら



- ・パンフレット/表(321KB)
- ・パンフレット/裏(617KB)

ちょっと走りはじめたら



- ・パンフレット/表(269KB)
- ・パンフレット/裏(717KB)

外遊び



- ・パンフレット/表(331KB)
- ・パンフレット/裏(838KB)

外出をするとき



- ・パンフレット/表(367KB)
- ・パンフレット/裏(938KB)

動きが活発になったら



- ・パンフレット/表(349KB)
- ・パンフレット/裏(760KB)

遊ぶ範囲が広がったら



- ・パンフレット/表(323KB)
- ・パンフレット/裏(853KB)

理解力がついてきたら



- ・パンフレット/表(255KB)
- ・パンフレット/裏(400KB)

パンフレットを閲覧・印刷される際には、Acrobat Readerが必要です。

お持ちでない方はダウンロードしてください。





## 子どものまわりに 危険がいっぱい!

子どもはすぐに大きくなって、いろいろなことができるようになります。子どもの発育・発達に親にとっての喜びです。そんな中意外に多いのが不慮の事故。このパンフレットは“気がついたら大惨事!”とならないための気づきポイントです。周囲のちょっとした気づきで事故の大部分は防げます。



## 子どもの発達に あわせた事故防止の 気づきポイントを。

発達段階	対象月齢・年齢
①寝返りをはじめたら	4～6か月
②物がつかめるようになったら	6～7か月
③ハイハイをはじめたら	8～9か月
④つかまり立ちをはじめたら	10～11か月
⑤歩きはじめたら	12か月～
⑥外遊び	1歳半～
⑦外出をするとき	1歳半～
⑧対象月齢・年齢	誕生～



著者 国立保健医療科学院 生涯保健部  
田中 智恵

無断複製禁止

# 子どもに 安全を プレゼント

## 乳幼児の事故防止<その1>



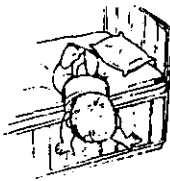
### 寝返りをはじめたら

## 寝返りをはじめたら

「寝ているから平気」という考えは事故のもとです。

### 1) ベビーベッドの柵は いつも上げていますか。

ベビーベッドからの転落事故は、赤ちゃんがまだ動いていないから大丈夫と思ってベッドの柵を下げてたままミルクを作りに行ったり、おもちゃを取りに行ったり、ベッドのそばをちょっと離れたときに起こってしまいます。



ベビーベッドに寝かせるときは必ず柵を上げておく。

### 3) ベビーベッドの柵とマットレスの間に すき間がありますか。

ベビーベッドの柵とマットレスや敷布団の間に、赤ちゃんの頭が入るようなすき間があると、頭がはさまって動けなくなり窒息する危険があります。すき間ができてしまう場合には使用をやめるか、タオルなどですき間を埋めてから使用しましょう。



ベビーベッドの柵とマットレスや敷布団の間にすき間がないか調べて使用する

### 5) よだれかけのひもを外してから 赤ちゃんを寝かせていますか。

赤ちゃんは寝返りをしたりずり上がったり、寝ている間も動きまわります。寝かせているときに首まわりのきつ服やよだれかけをつけていると、首まわりが締めつけられて窒息してしまう危険があります。



赤ちゃんを寝かせるときはよだれかけのひもを外す。

### 2) テーブル、ソファなどの上に赤ちゃんを 寝かせたまま目を離すことはありますか。

3か月くらいになると、赤ちゃんは手足をバタバタさせ強く動き、顔の方へずり上がったりします。5か月を過ぎると、早い赤ちゃんは寝返りができるようになるのでテーブル、ソファなど高いところに寝かせるときは目を離さないようにしましょう。



テーブル、ソファなどの高いところに寝かさなさい。

### 4) 赤ちゃんの顔のそばやベビーベッドの中に、 ぬいぐるみをたくさん置いていますか。

寝ている赤ちゃんのそばにぬいぐるみやタオルなどが置いてあると、寝返りをしたときに顔が埋まってしまい、鼻や口がふさがれてしまいます。また、敷布団などが顔に深くかかっているか、寝ている間でも時々様子を見るようにしましょう。



赤ちゃんの顔のそばにぬいぐるみやタオルは置かない。掛け布団は顔に深くかけすぎない。

### 6) タバコや灰皿はいつも赤ちゃんの 手の届かないところに置いていますか。

腹ばいになり、好きなおもちゃをつかんで遊ぶようになった赤ちゃんは、何でもつかんで口の中に入れようとしています。タバコは2cm以上食べてしまうと、命にかかわるといわれています。口に入れると危険なタバコが赤ちゃんの手の届くところにはないか、いつも気をつける必要があります。



タバコや灰皿は赤ちゃんの手の届かないところに置く。



## 子どものまわりに 危険がいっぱい!

子どもはすぐに大きくなって、いろいろなことができるようになります。子どもの発育・発達に親にとつての喜びです。そんな中意外に多いのが不慮の事故。このパンフレットは“気がついたら大惨事!”とならないための気づきポイントです。周囲のちよつとした気づきで事故の大部分は防げます。



## 子どもの発達に あわせた事故防止の 気づきを。

発達段階	対象月齢・年齢
①寝返りをはじめたら	4～6か月
②物がつかめるようになったら	6～7か月
③ハイハイをはじめたら	8～9か月
④つかまり立ちをはじめたら	10～11か月
⑤歩きはじめたら	12か月～
⑥ちよつと走りはじめたら	1歳半～
⑦外遊び	1歳半～
⑧外出をするとき	誕生～



著者 国立保健医療科学院 生涯保健部  
田中 哲郎

監修 浅井 誠

# 子どもに 安全を プレゼント

## 乳幼児の事故防止くその2



物がつかめるようになったら

国立保健医療科学院 生涯保健部  
田中 哲郎

## 物がつかめるようになったら

目をちよつと離したときのキケンがいっぱいです。

### 1) タバコや灰皿はいつも赤ちゃんの手の届かないところに置いていますか。

赤ちゃんは大人が口にくわえるタバコに興味をもっています。手の届くところにあるものがつかめると、タバコや灰皿を床やテーブルの上に置いておくのは危険です。飲み残したジュースの缶を灰皿がわりに使うのもやめましょう。液体に溶けたニコチンは吸収が早く、ひと口飲んだだけでも危険です。



タバコや灰皿は赤ちゃんの手の届かないところに置く。

### 2) おもちゃは安全マークを目安に選び、プラスチックの薄い突起やとがった部分がないか確認していますか。

最近はおもちゃの種類も豊富になり、安全性にも配慮がなされていますが、子どもは大人が思いもつかないような遊び方をします。おもちゃは子どもの年齢や発達にあったものを選びましょう。また、遊んでいるうちにおもちゃが壊れてけがをすることもあるので、安全に遊べるかどうか、ときどき確認しましょう。



日本玩具協会が安全基準に合格したおもちゃに認定しているSTマークがついていても、プラスチックの薄い突起やとがった部分がないか壊れたところがないか確認をする。

### 3) 赤ちゃんを抱きながら、熱い食べ物や飲み物を食べたり飲んだり、料理することがありますか。

赤ちゃんはこぶしをふるったり、物をつかんだりができるようになると、大人の持っている物に手を伸ばそうとします。片手で赤ちゃんを抱きながら熱い食べ物や飲み物を扱うことは危険です。また、抱いている赤ちゃんが動いたり倒って手から熱い食べ物や飲み物を滑り落とすこともあります。赤ちゃんの皮膚はとても薄く、洋服の上からでも大きなやけどを負ってしまいます。



赤ちゃんを抱きながら、熱い物を食べたり飲んだり運んだりしない。

### 4) ドアのちようつがい部分に、赤ちゃんの指が入らないように注意をしていますか。

赤ちゃんの小さな指はちよつとしたときにも簡単に入ってしまいます。赤ちゃんがドアをいじっているのに気づかずドアを閉めてしまったり、開け放しておいたドアが強風で急に閉まって赤ちゃんの手がはさまれてしまう事故もあります。ドアの開閉をするときは、赤ちゃんの手的位置を確認しましょう。ドアのちようつがい部分に指が入らないようなガードをして防止するもの一つの方法です。



ドアの開閉の際は、子どもの指の位置を確認する。

### 5) 赤ちゃんがお座りをするそばに、角や縁のするどい物がありますか。

一人でお座りができるようになって、お座りも安定です。赤ちゃんは頭が重いため、バランスを崩して前のめりになったり、後ろに倒れたりするので、赤ちゃんのすぐそばに家具や敷物、かたい積み木などのおもちゃがあるとぶつかってしまいます。



赤ちゃんが座るまわりに角や縁のするどい物を置かない。





## 子どものまわりに 危険がいっぱい!

子どもはすぐに大きくなって、いろいろなことができるようになります。子どもの発育・発達には親にとっての喜びです。そんな中意外に多いのが不慮の事故。このパンフレットは「気がついたら大惨事!」とならないための気づきポイントです。周囲のちょっとした気づきで事故の大部分は防げます。



## 子どもの発達に あわせた事故防止の 気づきポイントを。

発達段階	対象月齢・年齢
①寝返りをはじめたら	4～6か月
②物がつかめるようになったら	6～7か月
③ハイハイをはじめたら	8～9か月
④つかまり立ちをはじめたら	10～11か月
⑤歩きはじめたら	12か月～
⑥ちよつと走りはじめたら	1歳半～
⑦外遊び	1歳半～
⑧外出をするとき	誕生～



著者 国立保健医療科学院 生涯保健部  
田中 智郎

無断複製禁止

# 子どもに 安全を プレゼント

乳幼児の事故防止くその3>



ハイハイをはじめたら

国立保健医療科学院 生涯保健部  
田中 智郎

## ハイハイをはじめたら

こまめなかたづけを心がけて事故を未然に防ぎましょう。

### 1 赤ちゃんを家に一人置いて 外出することがありますか。

寝ている赤ちゃんだけを家に置いて、買い物などに出かける人が見られます。出かけるときは寝ていても、留守の間目覚めてしまうことがあります。ハイハイができるようになれば、家の中を動きまわるので、いろいろな危険が待ち受けています。また、火災や地震などの災害時に赤ちゃんは脱出できません。自分自身で身の安全を守ることはできない赤ちゃんを一人にしないようにしましょう。



赤ちゃんを家に一人残して外出しない。

### 3 ポットや炊飯器は赤ちゃんの 手の届かないところに置いてありますか。

赤ちゃんがハイハイができるようになると、床や畳の上に置いてあるポットをひっくり返してお湯をこぼしたり、炊飯器の蒸気の噴出し口に手や顔を近づけてやけどをしてしまうケースが多くなります。ポットはロックをかけて赤ちゃんがボタンを押してもお湯が出ないようにしておきましょう。



ポットや炊飯器は手の届かないところに置く。

### 5 バケツや洗面器に 水をためておくことがありますか。

赤ちゃんは10cmほどの浅い水深でも溺れてしまいます。バケツや洗面器に身を乗り出しているうちに、たまってしまった水に顔がつかって溺れてしまったりするので、使い終わったら必ず水を捨てておきましょう。水遊びをしているときは一人にしないことです。



バケツや洗面器に水をためておかない。

### 2 階段に転落防止の柵を取り付けましたか。

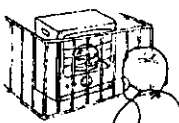
ハイハイが始まると目に映る物何にでも興味を示し、動きが活発になります。階段や段差があるところでは目が離せません。階段を上り下りできないように階段の上下には柵をつけ、玄関などの階段があるところには一人で通って行けないようにすることで転落事故の大部分は防げます。柵のすき間からすり抜け、転落する事故もありますので、柵子の間隔や高さにも気を配りましょう。



柵は階段の上と下(1階部分と2階部分)の両側から取り付け、閉め忘れのないようにする。

### 4 ストープやヒーターなどは 安全柵で囲って使用していますか。

ハイハイができるようになると、まわりにある物への関心はどんどん強くなります。ストーブにさわってしまったら、ヒーターの噴き出し口に指を入れてみたり、特に今は暖房器具によるやけどが多くなります。最近のストーブ、ファンヒーターなどは熱源が露出しているものは少なくなっていますが、熱源が直接出ているものは必ず安全柵で囲い、直接赤ちゃんがさわらないようにしておきましょう。



床に置くストーブやヒーターは必ず安全柵で囲う。



## 子どものまわりに 危険がいっぱい!

子どもはすぐに大きくなって、いろいろなことができるようになります。子どもの発育・発達には親にとっても喜びです。そんな中意外に多いのが不慮の事故。このパンフレットは“気がついたら大惨事!”とならないための気くばりポイントです。周囲のちょっとした気くばりで事故の大部分は防げます。



## 子どもの発達に あわせた事故防止の 気くばりを。

発達段階	対象月齢・年齢
①寝返りをはじめたら	4~6か月
②物をつかめるようになったら	6~7か月
③ハイハイをはじめたら	8~9か月
④つかまり立ちをはじめたら	10~11か月
⑤歩きはじめたら	12か月~
⑥ちよつと走りはじめたら	1歳半~
⑦外遊び	1歳半~
⑧外出をするとき	誕生~



著者 国立保健医療科学院 生涯保健部  
田中 智郎

印刷設計

## つかまり立ちをはじめたら

テーブルの上やタンスの角など室内の安全を見直しましょう。

### 1) タバコや灰皿はいつも赤ちゃんの手の届かないところに置いてありますか。

大人が口にくわえるタバコに赤ちゃんは強い興味を持っています。この頃は、タバコの誤飲事故が多くなります。つかまり立ちができるようになるとタバコや灰皿をテーブルの上に置いておくのは危険です。また、液体に溶けたニコチンは吸収が早く、ひと口飲んだだけでも危険なので、飲み残しのジュースの缶を灰皿がわりに使うのはやめましょう。



タバコや灰皿はいつも赤ちゃんの手の届かない場所に置く。

### 2) ボタン型電池、硬貨、ピアスなどの小物をテーブルの上に置いてありますか。

電池のふたが開いて出てきたボタン電池を飲み込んでしまったり、テーブルの上に置いた小物をつまんで口の中に入れてしまうので、床・畳・じゅうたんやテーブルの上には口に入れると危険なものは置けません。自分の家だけでなく、外出するときにも注意が必要です。異物を飲み込んでしまった場合、普通は48時間以内に便と一緒に排泄されますが、ボタン電池の場合は食道や胃で電気分解を起して壊れることがあるので、すぐに医師の診療が必要です。



ボタン電池や硬貨、ピアスなどの小物はテーブルの上に置いたままにしない。

### 3) 赤ちゃんがつかまり立ちをするときは、そばにいて注意していますか。

お座りをしていたのに、いつの間にかつかまり立ちをする赤ちゃん。テーブルや椅子につかまり立ちをするときは大人がそばについていないとまだ不安定です。バランスを崩して転んでしまい、テーブルなどの角で顔や口を打ったり切ったりしてしまいます。



赤ちゃんがつかまり立ちをするときは、そばにいて注意する。

### 4) 家具などの角のするどい部分は、クッションなどでガードがしてありますか。

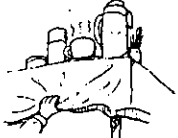
つかまり立ちやつたい歩きはじめた赤ちゃんに転倒はつきもので、目の高さにある家具や柱の角に、頭やおでこをぶつけてしまいます。家具類はなるべく丸みのあるものを選び、角にはクッションテープなどを張りつけ、ぶつかった時の衝撃を和らげる工夫をしておきましょう。



家具などの角のするどい部分には、クッションテープなどでガードをしておく。

### 5) テーブルクロスを使用していますか。

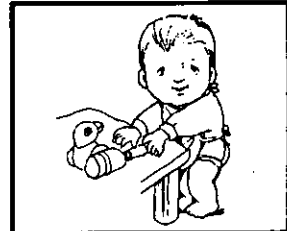
食卓にテーブルクロスをかけていると、赤ちゃんがつかまり立ちをするときに引っ張ることがあります。その上に熱い食べ物や飲み物が置いてあると、こぼれてやけどをしてしまいます。



テーブルクロスは使用しない。

# 子どもに 安全を プレゼント

## 乳幼児の事故防止<その4>



## つかまり立ちをはじめたら

国立保健医療科学院 生涯保健部  
田中 智郎

### 6) お茶やコーヒー、味噌汁、カップラーメンなどをテーブルの端に置くことがありますか。

赤ちゃんは物をつかめるようになると、熱い物にも平気で手をかけてしまいます。お母さんが食事の準備中、テーブルの上のコーヒーやカップラーメンをひっくり返してやけどをしてしまったり、食事のときも赤ちゃんの手の届くところに熱いものは置かないようにしましょう。



熱い食べ物や飲み物は赤ちゃんの手の届かないテーブルの中央に置く。

### 7) テーブルや棚の上にある食器やビン・缶などは、赤ちゃんの手が届かないようにしてありますか。

テーブルの上に置いてあるコップを落とすと、割れた破片を踏んでしまったり、缶詰やジャムのビンを足の上に落としてしまったり、手の届くところにある物に興味をもってさわったり、引っ張ったり、押したりします。切り傷や打撲事故の原因になります。



テーブルや棚の上にある食器や思いビン・缶などは赤ちゃんがさわれないようにしておく。

### 8) 子ども用の椅子は安定のよいものを使用していますか。

椅子に座っているときにテーブルを足で蹴った勢いで椅子が倒れたり、椅子に急に立ち上がって転落する事故があります。頭が重くバランスの良くない赤ちゃんは、椅子などの高いところから落ちやすいので、子ども用の椅子は安定の良いものを選びましょう。また、ハイチェアへ乗り降りするときは大人が行うように、安全ベルトを必ず閉めましょう。



からだの大きさやSGマークを基準に、倒れにくいものを選ぶ。



## 子どものまわりに 危険がいっぱい!

子どもはすぐに大きくなって、いろいろなことができるようになります。子どもの発育・発達には親にとっての喜びです。そんな中意外に多いのが不慮の事故。このパンフレットは「気がついたら大惨事!」とならないための気づきポイントです。周囲のちょっとした気づきで事故の大部分は防げます。



## 子どもの発達に あわせた事故防止の 気づきポイントを。

発達段階	対象月齢・年齢
①寝返りをはじめたら	4~6か月
②物がつかめるようになったら	6~7か月
③ハイハイをはじめたら	8~9か月
④つかまり立ちをはじめたら	10~11か月
⑤歩きはじめたら	12か月~
⑥ちよつと走りはじめたら	1歳半~
⑦外遊び	1歳半~
⑧外出をするとき	誕生~



著者 国立保健医療科学院 生涯保健部  
田中 智郎

無断転載禁止

# 子どもに 安全を プレゼント

## 乳幼児の事故防止くその5



### 歩きはじめたら

## 歩きはじめたら

子どもの目線でキケンな物を取り除きましょう。

### 1 子どもが歩くときは、つまずきやすい物や段差がないか注意していますか。

歩き始めは足がもつれて倒れたり、床に出ているおもちゃや敷居につまずいて頭を打つことが多く、おだまだ大人がそばについていないと不安定です。転んでも危なくないように、敷居や段差の角はクッションテープなどでカバーしておきましょう。



子どものまわりに、つまずきやすい物や段差がないか確認する。

### 2 階段や玄関など段差のあるところに子どもが一人で行くことがありますか。

玄関に歩いて行って転落したり、階段を四つん這いで上がって転落したりします。赤ちゃんはちよつと目を離したときに、思わぬところに移動しています。転落の危険のある場所にはおアに鍵をかけたり柵をつけて、一人では行けないようにしておきましょう。



玄関や階段などの段差のあるところは、子どもが自由に行けないようにしておく。

### 3 熱い鍋やアイロンは子どもの手の届かないところに置いていますか。

ちよつと目を離したときに、ガスレンジからおろしたばかりのやかんや熱い鍋をさわってしまったら、ひっくり返ってやけどをってしまう事故がみられます。使い終わったばかりのアイロンの温度は90度です。温度を冷ますときも手の届かないところに置きましょう。



熱い鍋やアイロンは子どもの手の届かないところに置く。

### 4 タバコが入っているバッグを子どものそばに置くことがありますか。

子どもは探究心が旺盛なので、大人が物を出し入れするバッグが気に入りなます。バッグの中には、小銭や化粧品、薬などの誤飲事故につながる物もたくさん入っています。バッグの中に入っていれば大丈夫と思って子どものそばに置いたため、目を離したときにバッグの中からタバコを出して食べてしまう事故が起きています。



タバコはいつも子どもの手の届かないところに置く。

### 5 かみそり、包丁、はさみなどの刃物は使用したら必ず片付けていますか。

まな板の上に置いてある包丁をとうろとして、足の上に踏としてしまったり、洗面台のかみそりを握ってしまったら、子どもは大人が使っているものに興味を持ち、まわして自分も使ってみようとして、刃物を使用したらすぐに収納場所に片付けましょう。収納場所は鍵をつけるなどで、簡単に開けられないようにしておきましょう。



かみそり、包丁、はさみなどの刃物は使用したらすぐに片付ける。

### 6 入浴後、浴槽のお湯は抜いていますか。

お母さんがシャンプーしている少しの間でも、浴槽をのぞきこんで落ちてしまうことがあるので、浴槽の外にいるからといって安心はできません。掃除をしようとして浴室のドアを開け放しておいたら、浴槽が濡れたり、入浴しようとして浴槽のふたを開けておいたため転落して溺れてしまうこともあります。浴槽のふたはたわみにくい物にして外すときは入浴直前、入浴後はお湯は抜いておきましょう。



入浴後、子どもが小さいうちは浴槽のお湯は抜いておく。

### 7 子どもが一人で浴室に入れないようにドアには鍵をつけていますか。

じっとしていることが少なく、一人で歩いていってしまうのが1歳の頃。知らないうちに浴室に入ってしまう、浴槽をのぞき込んで転落し、溺れてしまう事故が起きています。浴室のドアは開け放しにせず鍵をかけ、出入りできないようにしておきましょう。鍵は外側上部に日曜大工などで簡単に取り付けられるもので十分です。



子どもが簡単に浴槽に入れないようにドアには鍵を付ける。

### 8 ビニール袋やラップは子どもの手の届かないところに片付けていますか。

シールやラップをはがして遊んでいて、飲み込んで喉に詰まらせてしまったり、ビニール袋を頭からかぶって遊んでいて、鼻や口をふさいでしまうことがあります。スーパーやコンビニのビニール袋をおもちゃ代わりにして遊ばせるのは危険です。また、壁に貼ってある袋やひもに首をひっかけて窒息する事故も起こっています。



ビニール袋やラップは子どもの手の届かないところに片付ける。



## 子どものまわりに 危険がいっぱい!

子どもはすぐに大きくなって、いろいろなことができるようになります。子どもの発育・発達には親にとっての喜びです。そんな中意外に多いのが不慮の事故。このパンフレットは「気がついたら大惨事!」とならないための気づきポイントです。周囲のちょっとした気づきで事故の大部分は防げます。



## 子どもの発達に あわせた事故防止の 気づきポイントを。

発達段階	対象月齢・年齢
①寝返りをはじめたら	4~6か月
②物がつかめるようになったら	6~7か月
③ハイハイをはじめたら	8~9か月
④つかまり立ちをはじめたら	10~11か月
⑤歩きはじめたら	12か月~
⑥ちょっと走りはじめたら	1歳半~
⑦外遊び	1歳半~
⑧外出をするとき	誕生~

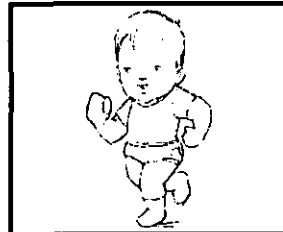


著者 国立保健医療科学院 生産保健部  
田中 智郎

印刷協力

# 子どもに 安全を プレゼント

## 乳幼児の事故防止<その6>



## ちょっと走りはじめたら

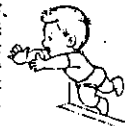
国立保健医療科学院 生産保健部  
田中 智郎

## ちょっと走りはじめたら

ころびやすい時期なので細心の注意をはらいましょう。

### 1 子どもが遊んでいるまわりに、つまずきやすい物や段差がないか注意をしていますか。

床に出してあるおもちゃや掃除機のコード、めくれあがったカーペットにつまづいて転んだりします。子どもは足もとを見ないで走り出すので、ちょっとした段差にもつまづいて転びます。ある程度の高さのある段差は理解できますが、ちょっとした段差は逆に危ないでの注意が必要です。



子どものまわりに、つまずきやすい物や段差がないか確認する。

### 2 階段を上り下りするときは、大人がいつも子どもの下側を歩くか、手をつないでいますか。

階段を上り下りするときは、転んでも支えられるように子どもの下側を歩きましょう。最初は後ろ向きにはいはいして降りるようにし、歩いて上り下りできるようになったら手を取ったり子どもの横か下側を歩きましょう。また、大人の目が離れることがあっても一人で上り下りしないように階段の上下階には柵を付け、階段からの転落事故を防ぐことができます。



階段の上り下りは、大人がいつも子どもの下側を歩くか手をつなぐ。

### 3 ペンやフォーク、歯ブラシなどをくわえて、走り回ることがありますか。

口に物をいれたまま歩いたり走り回っていると、転んだときに口の中を切ってしまったり、喉を突いてしまう危険があります。手に持っていたら、転んだときに突き刺してしまいます。



ペンやフォーク、歯ブラシなどをくわえたまま走り回らせない。

### 4 ベランダや窓のそばに、踏み台になる物を置いていますか。

ベランダや窓の向こう側の景色は子どもの興味をひきつけますが、転落したときの被害は大きなものとなります。ベランダにはびり器、ビール瓶のケース、新聞の束、高さのある植木鉢など、踏み台になるようなものは置かないようにしましょう。



子どもがのぞき込める窓には安全柵を付け、窓の側やベランダには踏み台になるようなものは置かない。

### 5 食事の準備をしているとき、子どもが熱い物にさわれないようにしていますか。

フライパンや鍋の取っ手にふれてこぼれてしまったり、コンロから降りればばかりのやんにさわってやけどをしてしまったり、食事の準備をしている台所は子どもにとって危険な場所のひとつです。コンロの上の鍋やフライパンの取っ手は内側に向けて手が届かないようにしておき、熱い物にさわるとやけどをすることを教え、食事の準備をしているときに子どもの位置を確認しましょう。



食事の準備をしているときは、子どもを台所に入れない。

### 6 医薬品、化粧品、洗剤などは子どもの手の届かないところに置いていますか。

子どもは大人のまねをしがたり、引き出しや冷蔵庫に入っている薬を取り出して誤飲してしまいます。また、お母さんが使う化粧品や洗剤も興味や関心があるので、浴室・洗面所・トイレ・台所に無造作に置かないようにしましょう。誤飲の場合、吐かせてよいものと思いがちですが、誤飲の場合、まず何を飲み込んだか落ち着いたと判断することが必要です。



薬は手の届かないところに置き、不要になった物は捨てる。化粧品や洗剤は瓶の中に入れて保管し、瓶が開けられないようにする。

### 7 子どもが引き出しやドアを開け閉めして遊んでいることがありますか。

引き出しを開け閉めして指を挟んでしまったり、引き出しを出してよじ登りタンスが倒れてはさまれたりします。子どもの背丈からいってもツェップのカギの部分はいくらもつまみやすいところなので、簡単に開けられないようにしておきましょう。気密性の高いツェップに指を挟まむと、ひどい場合は骨折をしてしまいます。



引き出しやドアを開け閉めして遊ばせない。

### 8 ピーナッツやあめ玉などは子どもの手の届かないところに置いていますか。

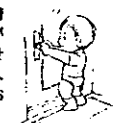
子どもの口の大きさは最大32mmなので、これより小さな物は飲み込み危険があります。おもちゃが口の中にすっぽり入ってしまったり、食べ物が飲み込みで喉につかえてしまったりします。子どもの喉はまだ未発達なので、気管に物が入りやすく、ピーナッツや枝豆などの豆類は物が入るの危険です。豆類は赤ちゃんの気管をふさぐ大きさです。気管に入っているのに気がつかないと肺の炎症を起こしてしまいます。



ピーナッツは3歳を過ぎるまでは与えない。

### 9 子どもが浴室のドアを開けて一人で中に入ることがありますか。

子どもが知らないうちに浴室に入り、浴槽をのぞき込んで転落し溺れてしまう事故が起きています。浴室のドアは開け放しにせず、鍵をかけておきましょう。浴槽の蓋は入浴直前に外し、入浴後はお湯を抜いておきましょう。



子どもが簡単に浴室に入れないようにドアには鍵をかけておく。



## 子どものまわりに 危険がいっぱい!

子どもはすぐに大きくなって、いろいろなことができるようになります。子どもの発育・発達には親にとっての喜びです。そんな中意外に多いのが不慮の事故。このパンフレットは「気がついたら大惨事!」とならないための気づきポイントです。周囲のちょっとした気づきで事故の大部分は防げます。



## 子どもの発達に あわせた事故防止の 気づきポイントを。

発達段階	対象月齢・年齢
①寝返りをはじめたら	4～6か月
②物がつかめるようになったら	6～7か月
③ハイハイをはじめたら	8～9か月
④つかまり立ちをはじめたら	10～11か月
⑤歩きはじめたら	12か月～
⑥ちよつと走りはじめたら	1歳半～
⑦外遊び	1歳半～
⑧外出をするとき	誕生～



著者 国立保健医療科学院 生涯保健部  
田中 智郎

図がれんは

# 子どもに 安全を プレゼント

## 乳幼児の事故防止<その7>



外遊び

国立保健医療科学院 生涯保健部  
田中 智郎

## 外遊び

地域の危険区域などを知り子どもの行動範囲を確認しましょう。

### 1) 子どもが外遊びをするとき、つまずきやすい物や段差がないか注意していますか。

子どもは体のわりに頭が大きく重心が高いため、バランスを崩してよく転びます。走っていて足がもつれたり、スクーター、三輪車に乗っていて石や段差で転倒します。またおたし上手に手をつくことができず、顔面からアスファルトやコンクリートに転倒して重傷を負うことがあります。サイズの合わない靴も転倒の原因になります。



子どものまわりに、つまずきやすい物や段差がないか確認する。

### 2) 子どもの遊んでいる位置を確認していますか。

庭で遊んでいたと思ったら道路に出ていたり、三輪車をこいだり、ボールを投げて道路に飛び出したり、止まっている車の後ろで遊んでいたりと、遊具の高いところによつてしまつたり、お母さんがおしゃべりに夢中になっているわずかなすきに、子どもは思いがけないところに移動します。子どもは遊びに夢中になると、まわりに注意を払うことができなくなります。



子どもは思いがけないところに移動するので注意する。

### 3) 遊具の安全を確認していますか。

おもちゃや遊具の大部分は安全に設計されていますが、釘が出ていたり、ねじがゆるんでいたり、さびていたり、濡れて滑りやすくなつていたりすると事故につながります。子どもの年齢や能力にあった遊具を選び、安全を点検してから遊ばせましょう。また、公園などで遊ぶときは、遊具の安全を確認し、遊び方に注意しましょう。



遊具の安全を確認してから遊ばせる。

### 4) すべり台やブランコの安全な乗り方を教えていますか。

すべり台で前を滑っている友達を後ろから押したり、ブランコに立ち乗りをしていて転落したり、ブランコの前を横切つて戻つてきたブランコに当たつたりします。子どもは決まつた遊び方では物足りず無理なことをしようとします。安全に作られている遊具でも遊び方を誤れば事故の引き金となります。ルールを決めて遊ばせましょう。



遊具の安全な遊び方を教える。

### 5) 水遊びをするときは必ず大人が付き添っていますか。

水遊びは子どもを開放的な気分にもさせる遊びですが、わずかな水深でも溺れてしまいます。浅瀬だから、底のビニールプールだからと安心して目を離すと大変危険です。ビニールプールは遊んだ後は必ず水を流して伏せておきましょう。



水遊びをするときは必ず大人が付き添う。

### 6) 子どもだけで川や池に遊びに行くことがありますか。

友だち同士と外で遊ぶことが多くなるので、住まいの近くの池や川、浄化槽や防火槽など子どもが落ちる危険がある場所がないか確認しておきましょう。バランスを崩して転んでしまうと、流れても流れのある溝では子どもは簡単に立ち上がりません。普段から川や池、水槽などに近づかせないように注意しておきましょう。



子どもだけで水辺に遊びに行かせない。

### 7) 三輪車や自転車は車が通らないところで乗っていますか。

まだまだ交通ルールがわからず、遊びに夢中になってしまうと周囲に注意を払うことができません。道路で遊ぶことは非常に危険なので、安全な場所で乗るように教えましょう。



三輪車や自転車は車が通らないところで乗る。



## 子どものまわりに 危険がいっぱい!

子どもはすぐに大きくなって、いろいろなことができるようになります。子どもの発育・発達には親にとっての喜びです。そんな中意外に多いのが不慮の事故。このパンフレットは「気がついたら大惨事!」とならないための気づきポイントです。周囲のちょっとした気づきで事故の大部分は防げます。



## 子どもの発達に あわせた事故防止の 気づきポイントを。

発達段階	対象月齢・年齢
①寝返りをはじめたら	4~6か月
②物がつかめるようになったら	6~7か月
③ハイハイをはじめたら	8~9か月
④つかまり立ちをはじめたら	10~11か月
⑤歩きはじめたら	12か月~
⑥ちよつと走りはじめたら	1歳半~
⑦外遊び	1歳半~
⑧外出をするとき	誕生~



著者 国立保健医療科学院 生涯保健部  
田中 哲郎

監修 代 哲郎

# 子どもに 安全を プレゼント

乳幼児の事故防止くその8



外出をするとき

国立保健医療科学院 生涯保健部  
田中 哲郎

## 外出をするとき

その都度安全確認をして外のケケンから守りましょう。

### 1 自動車に乗るとき、チャイルドシートを 後部座席に取り付けて使用していますか。

生まれたばかりの赤ちゃんでも、抱き抱えて自動車に乗せるのは危険です。車が衝突したり、急停止の衝撃で、どんなにしっかり抱いていても、赤ちゃんは腕から飛び出してしまう。車の速度がゆっくりでも衝撃のエネルギーは予想以上に大きく、大人の手の力では支えきれません。また、歩けるようになるとチャイルドシートになかなかじっと座ってられないので、抱きかかえたり使用しないで車に乗せてしまいがちですが、一緒に後部座席でシートベルトを試してみたり、好きなおもちゃを持たせたりして慣れさせ、チャイルドシートは必ず使用しましょう。



車の乗せるときは年齢にあったチャイルドシートを  
後部座席にしっかり取り付け使用する。

### 2 子どもを車の中に一人で 乗せておくことがありますか。

暑い季節に子どもを自動車の中に残したまわっていると脱水を起こし、時には死亡事故につながる可能性があります。日中の車内は短時間でも驚くほど温度が上昇し、簡単に40~50度になります。



子どもを決して車の中に  
一人で残しておかない。

### 3 赤ちゃんをクーハン(かご)に寝かせて 持ち上げるとき、両方の取っ手を しっかり握っていますか。

クーハンの扱いに慣れてくると、取っ手を片方しか持っていないのに気づかず持ち上げて赤ちゃんを落としたり、持ち運んでいるときに取っ手がとれて寝ている赤ちゃんが転落してしまう事故があります。



赤ちゃんをクーハン(かご)に寝かせて持ち上げるとき、  
必ず両方の取っ手を握っているのを確認する。

### 4 ベビーカーに乗せるときは ベルトを締めていますか。

ぶら下がっていた重い物袋の重みでベビーカーがひっくりかえってしまったり、赤ちゃんがいきなり立ち上がり転落してしまう事故があります。シートベルトを必ず締めましょう。



ベビーカーに乗せるときは必ずベルトを締める。

### 5 道路を歩くときは手をつないでいますか。

子どもが急に走り出したり、車道に飛び出したりする危険があります。子どもと道路を歩くときは手をつないで、大人が車道側を歩きまわらう。



道路を歩くときは手をつなく。

### 6 ドアを開閉するとき、子どもの手や 足の位置を確認していますか。

子どもの行動範囲が広がると、自動ドア、エレベーター、車のドアやパワーウィンドウなど、いろいろなところで手や足をささむ事故が多くなります。外出して初めて経験する場所では特に注意が必要です。ドアを開閉するときには指をささないように注意しましょう。



ドアを開閉するときは、子どもの手や足が  
どこにあるのか確認する。

### 7 子どもを乗せる自転車の後輪には ガードを付けていますか。

子どもを自転車に乗せていて、後輪に足の指やかかとをささむ事故が起こっています。子どもを自転車に乗せるときはガードがしっかりとついた補助椅子を使い、足が巻き込まれないようにドレスガードの付いたものを使用しましょう。



自転車の後輪にはガードを付ける。



## 子どものまわりに 危険がいっぱい!

3歳以上になると、子どもの行動はますます活発になり、行動範囲も広がり、転落、やけど、溺水、自動車事故などに合う危険が高くなります。子どもはまだ何が危ないか十分に分かっていません。危険と安全について十分に教えてあげてください。



## 子どもの発達に あわせた事故防止の 気くばりを。

- やけど ● マッチやライターを子どもの周辺に置かない  
転落・転倒 ● ベランダなど危険な場所では遊ばせない  
● 歯ブラシやお箸をくわえて走らせない  
● スベリ台では子どもから目を離さない  
● ブランコ等の遊具は安全な遊び方を教える
- 交通事故 ● 自動車同乗中はチャイルドシートを使う  
● 歩行中は安全な道路の歩き方や交通ルールを教える  
● 道路では遊んではいけないことを教える
- 溺水 ● 川、池、プールは大人が必ず付き添う



著者 国立保健医療科学院 生涯保健部  
田中 智郎

無断複製禁止

# 子どもに 安全を プレゼント

3歳からの事故防止



動きが活発になったら

国立保健医療科学院 生涯保健部  
田中 智郎

## 動きが活発になったら

子どもの動きに目を行き届かせましょう。

### 1) 子どものいる位置を確認していますか。

椅子やソファから飛び降りてテーブルにぶつかったり、庭で遊んでいたと思っていざ道路に出ていたり、遊具の高いところに登っていたりと、ちよつと目を離したすきに思いがけないところに移動します。子どもは遊びに夢中になると周囲に注意を払うことがまだ十分にできません。子どもの行動をよく観察し、安全に遊べる環境を作りましょう。また危険な遊び方を始めたら、きちんと指導しましょう。



子どもが遊んでいる位置や安全を確認する。

### 2) ベランダや窓のそばに 踏み台になるものを置いていますか。

ベランダや窓の外の景色は子どもの興味をひきつけますが、転落したときの被害は大きなものとなります。ベランダにはポリ容器、ビール瓶のケース、新聞の束、高さのある植木鉢など、踏み台になる物は置かないようにしましょう。



子どもがのぞきこめる窓には安全柵をつけ、窓のそばやベランダには、踏み台になる物は置かない。

### 3) 自動車に乗る時、 チャイルドシートを使用していますか。

子どもはなかなかしつと座っていません。チャイルドシートを嫌がる時、使用しないで車に乗せてしまいがちですが、車が衝突したり、急停車の衝撃でフロントガラスやダッシュボードにぶつかってしまいます。走行中、車内の装置を触らないようにするためにチャイルドシートに座らせ、シートベルトをしっかり閉めておきましょう。



車に乗せる時は、後部座席にチャイルドシートを取り付け必ず使用する。

### 4) 道路を歩くときは手をつないでいますか。

子どもは急に走り出したり、車道に飛び出したりする危険があります。子どもと道路を歩くと親は手をつなぎ、大人が車道側を歩きましょう。交通ルールも少しずつ話しておきましょう。



道路を歩くときは手をつなぐ。

### 5) 子どもが熱いものに触れないように していますか。

テーブルの上の熱いコーヒー・味噌汁・カップラーメンなどに手を出してひっくり返すと、やけどをしてしまいます。熱いものに触れるとやけどをすることを教え、食事の準備をしている時は子どものいる位置を確認しておきましょう。また、ストーブを使用する時は子どもが近づけないようにしておかないと、転倒した時に手をついてやけどをしてしまいます。



熱い食べ物や飲み物はテーブルの中央に置き、ストーブなどは安全柵で囲い使用する。

### 6) 医薬品、化粧品、洗剤などは子どもの 手の届かない所に置いていますか。

子どもは大人のまねをしたがり、引き出しや冷蔵庫に入っている薬を取り出して誤飲する危険があります。また、お母さんが使う化粧品や洗剤にとても興味があるので、浴室・洗面所・トイレ・台所に無造作に置かないようにしましょう。



薬は手の届かないところに置き、化粧品や洗剤は棚の中に保管する。

### 7) 鼻や耳に小物を入れて 遊んでいることがありますか。

子どもはビーズやプラスチックの玉、小さなブロックやおかしなどをおもしろ半分鼻や耳に詰めて遊ぶことがあります。異物が詰まっているのに気づかないと、鼻の粘膜が炎症をおこしたり、思わぬ事故になることもあるので注意しましょう。



子どもが鼻や耳に入れてしまうような物が  
ないように、部屋の中は整理整頓をしておく。

### 8) 子どもの腕を 強く引っ張ることがありますか。

転びそうになって急に片腕を引き上げたり、お兄ちゃんお姉ちゃんとして遊んでいて腕を強く引っ張られた時に脱臼は起きています。脱臼は直になりやすいので、腕を強く引き過ぎないように注意しましょう。



子どもの腕を引く時は  
強くなりすぎないようにする。



## 子どものまわりに危険がいっぱい!

3歳以上になると、子どもの行動はますます活発になり、行動範囲も広がり、転落、やけど、溺水、自転車事故などに合う危険が高くなります。子どもはまだ何が危険か十分に分かっていません。危険と安全について十分に教えてあげてください。



## 子どもの発達にあわせた事故防止の気づきばり。

- やけど
- マッチやライターを子どもの周辺に置かない
  - ベランダなど危険な場所で遊ばせない
  - 歯ブラシやお箸をくわえて遊ばせない
  - スベリ台では子どもから目を離さない
  - プランコ等の道具は安全な遊び方を教える
- 交通事故
- 自動車同乗中はチャイルドシートを使う
  - 歩行中は安全な道筋の歩き方や交通ルールを教える
  - 道路では遊んではいけないことを教える
- 溺水
- 川、池、プールは大人が必ず付き添う



監修 国立保健医療科学院 主任医官 田中 智郎

無任所 田中 智郎

# 子どもに安全をプレゼント

## 4歳からの事故防止



遊ぶ範囲が広がったら

国立保健医療科学院 主任医官 田中 智郎

## 遊ぶ範囲が広がったら

子どもとまわりの安全確認をしっかりしましょう。

### 1 子どもが遊んでいる道具やまわりの安全を確認していますか。

おもちゃや道具の大部分は安全に設計されていますが、ネジがゆるんでいたりと、壊れていると事故につながります。また、走っている足がもつれたり、三輪車や自転車に乗って段差で転倒したりします。まだまだ転んでも上手に手を出ることができず、顔面からコンクリートや道具にぶつかってしまうので、まわりに段差や角の鋭い部分がないか確認しましょう。



道具やまわりの安全を確認してから遊ばせる。

### 2 すべり台やブランコの安全な遊び方を教えていますか。

すべり台で前をすべっている友達を後ろから押したり、ブランコの下に入って戻ってきたブランコにあたりたり、子どもは決まった遊び方では物足りず無理なことをしようとします。安全に作られている道具でも遊び方を誤れば事故の引き金となります。



道具の安全な遊び方を教える。

### 3 子どもに交通ルールを教えていますか。

横断歩道を信号の変わり際に渡って車と接触したり、ボールを道に飛ばして車にぶつかるなど、子どもは遊びに夢中になると、周囲に注意を払うことがうまくできません。車道を横切るときは必ず左右をよく見てから渡るように教えましょう。



交通ルールを少しずつ教える。

### 4 ドアを閉める時、子どもの手の位置を確認していますか。

子どもの手がドアにふれているのに気付かず閉めてしまうと、柔らかい子どもの指はつぶれてしまいます。特に車のドアは子どもが開けられないようにドアロックし、パワーウィンドウを閉める時は、窓から顔や手がでていないか確認してから行いましょう。



ドアを閉める時、子どもの指をはさまないか確認をする。

### 5 子どもを乗せる自転車にはガードを付けていますか。

子どもを自転車に乗せていて、後輪に足の指やかかとをはさむ事故が起こっています。子どもを自転車に乗せるときは、足が巻き込まれないように、ガードのついた補助椅子を使用しましょう。また、補助椅子に乗せたまま自転車から離れると、自転車が倒れた時危険です。



後輪にはガードを付け、補助椅子に幼児を乗せたまま自転車から離れない。

### 6 かみそり、包丁、はさみなどは使用したら必ず片付けていますか。

また板の上の包丁を取ろうとして、足の上に落としたり、洗面台のかみそりを握ってしまったら、子どもは大人が使っているものに興味を持ち、真似をして自分でも使ってみようとしてしまいます。まだまだ大人が見ていない時に刃物を使用するのは危険ですので、使用したら収納場所に片付ける習慣をつけておきましょう。



刃物を使用したら必ず片付けておく。

### 7 お箸や歯ブラシなどをくわえて、走り回ることがありますか。

お箸や歯ブラシなどを口にくわえて、歩いたり走り回っていると、転んだ時に口の中を切ってしまうたり、喉を突いたりする危険があります。



お箸や歯ブラシなどをくわえたまま走り回させない。

### 8 水遊びをする時は大人が付き添っていますか。

水遊びは子どもを開放的な気分させる遊びですが、わずかな水深でも溺れてしまいます。浅瀬でも流れがあると、バランスを崩して転ぶと簡単に立ち上がれません。



水遊びをする時は必ず大人が付き添う。





## 子どものまわりに 危険がいっぱい!

3歳以上になると、子どもの行動はますます活発になり、行動範囲も広がり、転落、やけど、溺水、自動車事故などに合う危険が高くなります。子どもはまだ何が危険か十分に分かりません。危険と安全について十分に教えてあげてください。



## 子どもの発達に あわせた事故防止の 気づき方を。

- やけど ●マッチやライターを子どもの周辺に置かない  
転落・転倒 ●ベランダなど危険な場所で遊ばせない  
●傘ブラシやお箸をくわえて走らせない  
●スベリ台では子どもから目を離さない  
●ブランコ等の遊具は安全な遊び方を教える
- 交通事故 ●自動車同乗中はチャイルドシートを使う  
●歩行中は安全な道順の歩き方や交通ルールを教える  
●道路では遊んではいけないことを教える
- 溺 ●川、池、プールは大人が必ず付き添う

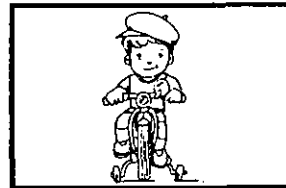


著者 国立保健医療科学院 生涯保健部  
田中 智郎

図が読める

# 子どもに 安全を プレゼント

## 5歳からの事故防止



理解力がついてきたら

国立保健医療科学院 生涯保健部  
田中 智郎

## 理解力がついてきたら

その都度子どもにルールを教えましょう。

### 1 おもちゃや遊具で遊んでいる時、 危険なことをしていないか 確認をしていますか。

おもちゃを持って遊具の高いところから飛び降りたり、ひもをすべり台やジャンゲルジムにかけて遊んだり、子どもは大人が思いつかないような遊び方を見つめます。遊び方もダイナミックになると、遊具本来の遊び方で遊ぶとは限らないので、大人が常に安全を確認する必要があります。



子どもの年齢や能力に合った遊具を選び、  
遊び方のルールを身につけさせる。

### 2 自転車は車が通らないところで 乗っていますか。

子どもは遊びに夢中になってしまつと道路に飛び出したり、停まっている車の後ろで遊んでいたり、まだまだ周囲に注意を払うことができません。自転車に乗る時はルールを作り、安全な場所で乗るようしましょう。



自転車は車が通らない安全なところで乗る。

### 3 子どもに交通ルールを教えていますか。

子どもが自分で身を守り安全な行動ができるように、安全な道順の歩き方、道路の横断の仕方、バスや自動車の乗り方など、交通についてのきまりを教えるようにしましょう。



交通ルールを子どもに教える。

### 4 ドアを開閉する時、 子どもの手や足の位置を確認していますか。

子どもの行動範囲が広がると、自動ドア、エレベーター、車のドアやパワーウィンドウなど、色々な所で手や足をはさむ事故が多くなります。ドアを開閉する時は指をはさまないように注意しましょう。また、遊びに夢中になりガラスに突進してぶつかることがあります。シールを貼ったり、ぶつかっても飛び散らないようなフィルムを貼って防止しましょう。



ドアを開閉する時は、子どもの手や足が  
どこにあるか確認する。

### 5 浴室の床やプールサイドは 滑りやすいことを教えていますか。

浴室の床やプールサイドは水や石鹸で滑りやすく、転倒すると蛇口や浴槽、入り口の段差で打撲したり切傷してしまいます。



浴室の床やプールサイドは  
滑りやすいことを教える。

### 6 マッチやライターは 手の届かない所に置いてありますか。

子どもにとってマッチやライターは興味のあるものです。マッチやライターによる火遊びは、やけどや火事など重大な事故につながります。また、台所のがスコンロやトースターなどのスイッチを勝手に入れてしまうことがないように教えておきましょう。



マッチやライターは手の届かない所に置く。

### 7 子どもだけで川や池に 遊びに行くことがありますか。

友達同士で遊ぶことが多くなるので、住まいの近くの池や川、浄化槽や防火槽など子どもが落ちる危険がある場所がないか確認しておきましょう。浅瀬でも流れがあると、バランスを崩して転ぶと簡単に立ち上がられません。普段から川や池、水槽などに近づかないよう注意しておきましょう。



子どもだけで川や池に遊びに行かせない。

### 8 食事をする時は 落ち着いて食べさせていますか。

子どもの喉はまだ未発達なので、気管に物が入りやすく、落ち着いて食べないと喉につまらせてしまいます。あめ・こんにやくゼリー・おもちなどをあげる時はのどに詰まらせないように注意しましょう。



食べ物は硬さや大きさ、口の中に入れる  
量を考え、ゆっくり食べさせる。

# 子どもに安全をプレゼント 事故防止支援サイト

保健医療・保育関係者用トップページ

[トップ](#) > [保健医療・保育関係者用トップ](#) > [家庭内安全チェックリスト\(ホームセーフティー100\)](#)

## 家庭内安全チェックリスト(ホームセーフティー100)

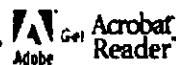


- |                                |                                  |                                  |
|--------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|
| ・ <a href="#">表紙1-4(158KB)</a> | ・ <a href="#">内容1-16(1919KB)</a> | ・ <a href="#">内容5-12(1890KB)</a> |
| ・ <a href="#">表紙2-3(793KB)</a> | ・ <a href="#">内容2-15(2267KB)</a> | ・ <a href="#">内容6-11(1659KB)</a> |
|                                | ・ <a href="#">内容3-14(2167KB)</a> | ・ <a href="#">内容7-10(1704KB)</a> |
|                                | ・ <a href="#">内容4-13(1966KB)</a> | ・ <a href="#">内容8-9(1806KB)</a>  |

※全て印刷して綴じていただくと、ひとつの冊子になります。

パンフレットを閲覧・印刷される際には、Acrobat Readerが必要です。

お持ちでない方はダウンロードしてください。



Copyright (c) 2004 National Institute of Public Health , Tetsuro TANAKA All Rights Reserved.



財団法人  
独立行政法人科学技術振興機構  
安全センター

# ホームセーフティ 100

家庭内安全点検チェックリスト



# ホームセーフティ 100

家庭内安全点検チェックリスト

ホームセーフティ100は、子どもの事故を防止するために、家庭内の安全について点検するためのチェックリストです。  
子どもの死亡原因のトップは、病院ではなく家庭によるものです。  
小児は子どもたちにとって安全と考えられている家庭内で、事故が多く発生しています。  
子どもの事故の全国調査により、事故が多く発生している場所が明らかになり、ちょっとした気配りで、大部分の事故を防ぐことが可能と考えられています。  
このホームセーフティ100は、家庭内で起こりやすい事故を場所別に点検するものです。一父、お父さん、お母さんと家庭内の安全について、このチェックリストを使用し、点検することをおすすめします。  
このチェックリストによって、子どもの事故が少しでも防止できれば幸いです。

平成18年2月

独立行政法人科学技術振興機構  
安全センター  
田中 哲郎

### チェックリストの使い方

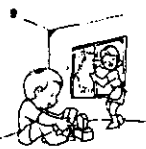
お父さん、お母さんと家庭内の安全を点検してください。  
安全対策ができていても項目には口印をつけましょう。  
もし、印がつかない場合は、紙を参考に安全対策を実施しましょう。

### ●子どもの発達と事故例

年齢	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳	18歳
乳児	窒息、落下、誤飲、誤食、熱傷、凍傷、火傷、溺死、中毒、交通事故																		
学童		落下、窒息、誤飲、誤食、熱傷、凍傷、火傷、溺死、中毒、交通事故	落下、窒息、誤飲、誤食、熱傷、凍傷、火傷、溺死、中毒、交通事故	落下、窒息、誤飲、誤食、熱傷、凍傷、火傷、溺死、中毒、交通事故	落下、窒息、誤飲、誤食、熱傷、凍傷、火傷、溺死、中毒、交通事故	落下、窒息、誤飲、誤食、熱傷、凍傷、火傷、溺死、中毒、交通事故	落下、窒息、誤飲、誤食、熱傷、凍傷、火傷、溺死、中毒、交通事故	落下、窒息、誤飲、誤食、熱傷、凍傷、火傷、溺死、中毒、交通事故	落下、窒息、誤飲、誤食、熱傷、凍傷、火傷、溺死、中毒、交通事故	落下、窒息、誤飲、誤食、熱傷、凍傷、火傷、溺死、中毒、交通事故	落下、窒息、誤飲、誤食、熱傷、凍傷、火傷、溺死、中毒、交通事故	落下、窒息、誤飲、誤食、熱傷、凍傷、火傷、溺死、中毒、交通事故	落下、窒息、誤飲、誤食、熱傷、凍傷、火傷、溺死、中毒、交通事故	落下、窒息、誤飲、誤食、熱傷、凍傷、火傷、溺死、中毒、交通事故	落下、窒息、誤飲、誤食、熱傷、凍傷、火傷、溺死、中毒、交通事故	落下、窒息、誤飲、誤食、熱傷、凍傷、火傷、溺死、中毒、交通事故	落下、窒息、誤飲、誤食、熱傷、凍傷、火傷、溺死、中毒、交通事故	落下、窒息、誤飲、誤食、熱傷、凍傷、火傷、溺死、中毒、交通事故	落下、窒息、誤飲、誤食、熱傷、凍傷、火傷、溺死、中毒、交通事故
青少年																			

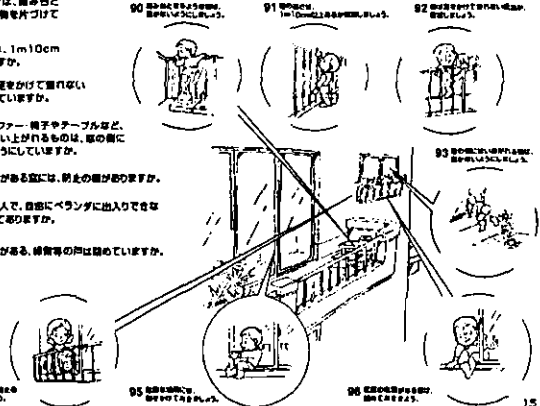
### ●安全な家を確保するための基本的な事項-2

- 6.  地震速報発生（自治体・病院・中継センターなど）は、速にでもわかるように対応して取りまわすか。
- 7.  地震手続のマニュアルや冊子を準備し、点検していますか。
- 8.  子どもを家に一人残して、外出せしないようにしていますか。
- 9.  窓の開放を抑制していますか。
- 10.  地震の中は管理用無し、ダイヤはこわがないように調整していますか。



### ●ベランダ・窓

- 90.  ベランダでは、踏み台となるような物を片づけていますか。
- 91.  欄の高さは、1m10cm以上ありますか。
- 92.  欄の間に、足をかけて置れない構造になっていますか。
- 93.  ベッドやソファ、椅子やテーブルなど、子どもがはし上がるものは、欄の間に置かないようにしていますか。
- 94.  仮設の足場がある際には、防止の欄が取り付けられていますか。
- 95.  子どもが一人で、自由にベランダに出入りできないようにしていますか。
- 96.  仮設の足場がある際、補修等の際は締められていますか。



●階段・廊下

82.  階段の上り下りに、転落防止用の柵を取りつけていますか。

83.  階段を降り降りる時は、大人が下階を歩くか、手をつかっていますか。

84.  滑りやすい階段には、滑り止めを貼っていますか。

85.  階段の照明は、明るくしてありますか。

86.  ドアを外向きに開けるときは、子どもにぶつかからないか注意していますか。

87.  テーブルや家具に隠らず、角の鋭い部分にはガードをしていますか。

88.  赤ちゃんを遊ばしている時は、扉元の階段には蓋をしていますか。

89.  廊下は滑りにくく、ぶつかって危険なものはないですか。

82 階段の上り下りに、転落防止用の柵を取りつけていますか。

83 階段を降り降りる時は、大人が下階を歩くか、手をつかっていますか。

84 滑りやすい階段には、滑り止めを貼っていますか。

85 階段の照明は、明るくしてありますか。

86 ドアを外向きに開けるときは、子どもにぶつかからないか注意していますか。

87 テーブルや家具に隠らず、角の鋭い部分にはガードをしていますか。

88 赤ちゃんを遊ばしている時は、扉元の階段には蓋をしていますか。

89 廊下は滑りにくく、ぶつかって危険なものはないですか。

14

●居間・食卓-1

11.  壁面や家具には、つまみがないようにガードがしてありますか。

12.  滑りやすい壁紙では、ぶつかって危険なものをはがしていますか。

13.  角の鋭い家具には、ガードがしてありますか。

14.  赤ちゃんの遊ぶまわりでは、鋭い指み本などのおもちゃを片付けていますか。

15.  子どもがぶつかかそうならガラスの戸には、安全対策をしていますか。

16.  子ども用の椅子は、安定のものを使用していますか。

17.  子どもがハイチェアに落ちるときは、安全ベルトを使用していますか。

18.  赤ちゃんの寝る場所には、マットレスを敷いていますか。

19.  赤ちゃんの寝る場所には、マットレスを敷いていますか。

20.  ハイチェアに落ちるときは、安全ベルトを使用していますか。

11 壁面や家具には、つまみがないようにガードがしてありますか。

12 滑りやすい壁紙では、ぶつかって危険なものをはがしていますか。

13 角の鋭い家具には、ガードがしてありますか。

14 赤ちゃんの遊ぶまわりでは、鋭い指み本などのおもちゃを片付けていますか。

15 子どもがぶつかかそうならガラスの戸には、安全対策をしていますか。

16 子ども用の椅子は、安定のものを使用していますか。

17 子どもがハイチェアに落ちるときは、安全ベルトを使用していますか。

18 赤ちゃんの寝る場所には、マットレスを敷いていますか。

19 赤ちゃんの寝る場所には、マットレスを敷いていますか。

20 ハイチェアに落ちるときは、安全ベルトを使用していますか。

3

●玄関

97.  ドアを開け閉めする時は、子どもの手を掴まないように注意していますか。

98.  ドアが、奥で突然閉まるないようにしていますか。

99.  足音のある玄関には、赤ちゃんが自由に歩けないようにしていますか。

100.  玄関のじょうたんやマットは、滑らないようにしていますか。

97 ドアを開け閉めする時は、子どもの手を掴まないように注意していますか。

98 ドアが、奥で突然閉まるないようにしていますか。

99 足音のある玄関には、赤ちゃんが自由に歩けないようにしていますか。

100 玄関のじょうたんやマットは、滑らないようにしていますか。

16

●安全な家を確保するための基本的な事項-1

- 火事の時の避難経路を、2方向確保していますか。
- 消火器を用意していますか。
- 甲冑に備えて、煙や熱、ガラスの飛散を防いでいますか。
- 地震など災害時のために、食料や子どもに必要なものを準備していますか。
- ベビー用品やおもちゃは、デザインより安全性を重視していますか。

1 火事の時の避難経路を、2方向確保していますか。

2 消火器を用意していますか。

3 甲冑に備えて、煙や熱、ガラスの飛散を防いでいますか。

4 地震など災害時のために、食料や子どもに必要なものを準備していますか。

5 ベビー用品やおもちゃは、デザインより安全性を重視していますか。

1

●浴室・洗面所-2

59.  カミソリなどの刃物は、手の届かないところに置いてありますか。

60.  洗面など子どもが誤って危険なもの、手の届かないところに置いてありますか。

61.  バケツや洗面器には、水をためたおかないようにしていますか。

62.  化粧箱は、手の届かないところに置くか、箱の中に入れてありますか。

63.  ドライヤーは、使用後コンセントをぬいておきますか。

64.  洗面機には水を貯めず、周りには濡れかたを乾かさないようにしていますか。

59 カミソリなどの刃物は、手の届かないところに置いてありますか。

60 洗面など子どもが誤って危険なもの、手の届かないところに置いてありますか。

61 バケツや洗面器には、水をためたおかないようにしていますか。

62 化粧箱は、手の届かないところに置くか、箱の中に入れてありますか。

63 ドライヤーは、使用後コンセントをぬいておきますか。

64 洗面機には水を貯めず、周りに濡れかたを乾かさないようにしていますか。

10

●台所-1

40.  調理している時は、子どものいる位置を確認していますか。

41.  コンロ上のフライパンや鍋の蓋は、子どもが揺れないように閉めていますか。

42.  コンロからあふらしたばかりの湯ややかんは、子どもの手の届かないところに置いてありますか。

43.  ボットは、子どもの手の届かないところに置いてありますか。

44.  炊飯器は、子どもの手の届かないところで使用していますか。

45.  電気コードは、子どもが引っ張れないようにして使用していますか。

40 調理している時は、子どものいる位置を確認していますか。

41 コンロ上のフライパンや鍋の蓋は、子どもが揺れないように閉めていますか。

42 コンロからあふらしたばかりの湯ややかんは、子どもの手の届かないところに置いてありますか。

43 ボットは、子どもの手の届かないところに置いてありますか。

44 炊飯器は、子どもの手の届かないところで使用していますか。

45 電気コードは、子どもが引っ張れないようにして使用していますか。

7